

理事会 及び 賀詞交歓会 開催

2023年1月24日 東京・海運クラブにて

全国海運組合連合会(全海運)は2023年1月24日、東京・平河町「海運クラブ」にて第365回理事会及び賀詞交歓会を開催した。

理事会では、主に、昨年3月末の暫定措置事業の実質的廃止に伴い、現在、全海運に設置されている3部会(①船主部会／②輸送部会／③砂利船部会)及び6委員会(①総務委員会／②環境安全委員会／③規程関係検討委員会／④船員対策検討委員会／⑤内航海運活性化プロジェクトチーム／⑥諸法制見直し検討委員会)について、今後の組織の在り方等見直しを図り、新体制への移行を図る為の議論について多くの時間を充てた。

「令和5年度新組織形態(案)」のたたき台を基に、多角的に事象を捉え検討し、多くの忌憚なき意見を出し合った。

それらの意見及び課題等を基に、更なる議論を重ね、最終的には今年度末までに新組織形態の完成を目標とすることとした。





賀詞交歓会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、理事のみとし、内輪にてささやかに開催した。

藏本会長の開会挨拶では、①働き方改革に関する法整備後も、引続き、法令遵守を徹底すること②将来の内航海運における船員不足について述べた。

特に②においては、現在の輸送量及び船員の供給量が維持されたと仮定すると10年後には2,746人の船員不足が生じるという試算、また、陸上産業との休暇条件を近づける為には、船員の予備員率を60%近くまで上げなければならず、約4,800人の船員不足になるという具体的な数字を出して危機感を募らせた。

また、船舶の大型化や技術革新による省力化及び省人化などの輸送効率を上げる方法も併せて取り組むこととし、現状を踏まえた今後の対応を各位と共に検討していきたい旨、述べた。

続いて岡本副会長の乾杯発声により和やかにスタートした。

賀詞交歓会の様子



最後は宗田副会長より中締めを行い、2023年・癸卯(みずのとう)にあやかり、上り坂が得意で多少の下り坂や逆風に負けないウサギの様に、我々全海運も飛躍の年となることを念じて、一本締めにて締めくくった。